

学校のケア風土に関する教職員の認識—質的研究から—

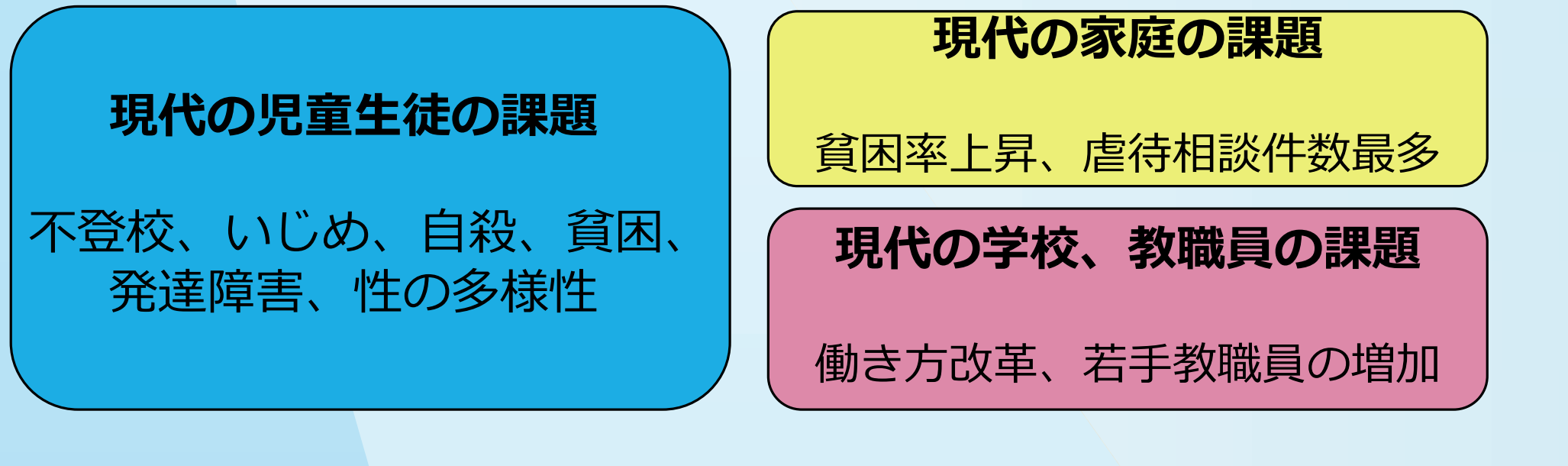
新田 由佳¹ 朝倉 隆司²

1) 東京学芸大学大学院教育学研究科養護教育専攻 2) 東京学芸大学教育学部養護教育講座

研究の背景と目的

研究疑問：学校の現状として、子どもたちの学力向上、問題行動を起こさないことを重視し、学校や学級の文化や習慣についていけなくなった子どもたちを排除する傾向にある。

→教職員のあるべき姿、学校の雰囲気や環境はどのようなものであるべきか。子どもを取り巻く大人の価値観や認識が子どもたちに大きく影響しているのではないか。



【ケアについて】

○ミルトン・メイヤロフ：「一人の人格をケアすることは、最も深い意味で、その人が成長することを、自己実現することをたすけることである。」

○ネル・ノディングズ：「学校の第一の仕事は、子どもたちをケアすることにある。」

「ケアが、成功する教育すべてのまさに基盤であり、現代の学校教育は、この視点から再活性化される。」

多様化、複雑化する課題に対応するためには、
ケアの考え方を取り入れる必要があるのではないか。

**目的：教職員が捉えている学校でのケア、ケア風土についての認識を明らかにする。
学校におけるケア風土の特徴を究明する。**

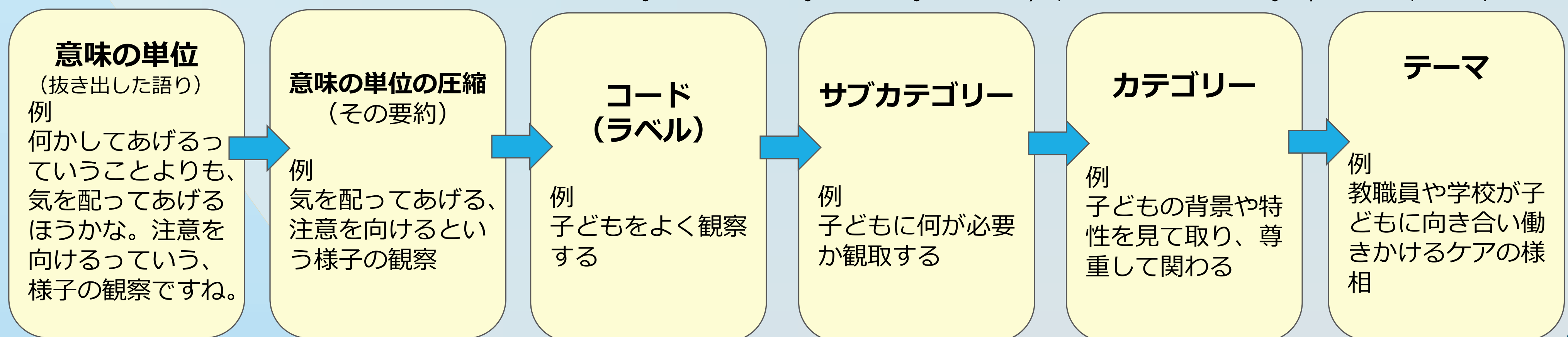
研究方法

ケア風土とは、ケアし、ケアされる関係性、雰囲気、環境と暫定的に定義する。（研究を通して洗練していく。）

時期：2018年7月～8月

【分析方法】 テーマ分析の方法を参考にした。

Christen Erlingsson : A hands-on guide to doing content analysis, African Journal of Emergency Medicine7, 93-99, 2017



1人につき約1時間の半構造化インタビューを実施

結果

テーマ：教職員や学校が子どもに向き合い働きかけるケアの様相

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子どもの背景や特性を見て取り、尊重して関わる	子どもに何が必要か観取する	子どもにとって何が必要か考える 自分の目で子どもを知る 子どもをよく観察する 子どもの背景を意識する 観察して理解する行為 子どもの考えを理解する
	子どもの本音を引き出し尊重する	子どもの声を引き出す 子どもたちの気持ちを引き出す 子どもの意思の尊重 子どもと教師のズレを防ぐ
	子どもの特性に合わせて関わる	年齢、発育、発達の特性 子どもの特質に合わせて関わり

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子どもを守り育てる 大人として振舞う	教員として一貫性をもって子どもたちを指導する	一貫した指導を続ける 目的のある指導を続ける
	子どもを守り育てる大人の自覚を持って関わる	自他の命を守る 子どもの人権を守る 子どもを守る責任 子どもを育てる責任

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
将来の子ども姿を明確にして育てる	セルフケアできる子どもに育てる	自分のことをケアできる子ども 自分を大切にできる
	自己解決できる子どもに育てる	自己解決の力を育てる
	子どもの将来を見据えて育てる	社会人になる将来の姿を目指す

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
子どもと公平で、配慮ある関係を築き、安心できる学校にする	どの子ども公平に、配慮した関わりをする	公平さを保つ 対等な関係で対話する どの子どもにもケアが必要である感覚をもつ どの子どもにも同じように関わる
	子ども同士が尊重し合う関係づくりを促す	子ども同士の交流を促す 子ども同士が認め合う人間関係づくり 相手を尊重し合う風土づくり
	子どもが安心できる居場所をつくる	優しく見守られる空間づくり 学校に馴染めない子どもたちが安心できる環境を整える

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学校がチームとして子どもに関わる体制づくり	抱え込まず、チームで関わる	巻き込んで全体で解決する 複数で指導する チームで関わる姿勢を子どもに見せる 巻き込み、抱えない
	教職員の特徴を生かして働きかける	教職員の役割、特徴を生かす 養護教諭が要となる
	教職員間で子どもの情報を共有する	子どもにとって何が良いか本音で語り合える 子どもの些細な出来事を相談できる 積極的な情報交換ができる場を設定する

考察、まとめ

○教職員や学校が子どもに向き合い働きかけるケアの様相として、5つのカテゴリーに分けられ、教職員がケアとして捉えられる実践が明らかとなった。

○普段、「指導」や「支援」という働きかけの中に、「ケア」と捉えられる要素があると考えられる。

→学校の中で「ケア」という視点を持ち、学校全体で「ケア風土」を築いていくことで、様々な課題をもつ子どもに働きかけることができること示唆できた。

○今後、更にインタビュー調査を重ね、学校がケア風土を築いていく重要性を明らかにする。